

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑥まちづくり等分野(3/3)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
持続可能な中山間地域を目指す自立的地域コミュニティ創造特区(長岡市)	4.0	3.8 進捗度 ・住民基本台帳人口 -140% ・市政への満足度(バス・電車など公共交通機関)「満足である」又は「どちらかといえば満足」 《定性的評価》 ・『自立経営型NPO法人』が行う生活交通事業により運行サービスが受けられる市民の割合 100%	4.7 規制の特例等 ・過疎地有償旅客運送マイクロバス有償貸渡事業 地域独自の取組 ・公共交通等確保維持事業 ・山の暮らし再生事業 等	3.7	<p>・人口の状況をみると、自然減及び社会減が避けられない状況のなかで、一定の状況を維持しているものと思われる。NPOによる住民出資・参画型の運営を堅調に継続しており、事業展開地域の拡大やレンタカー事業などの実施は今後期待できるものである。</p> <p>・他地域を先導する重要な取り組みであるが、生活交通サービスの利用者の減少が懸念される。自立経営型NPO法人による生活サービス提供モデルの構築に向けて、ニーズの拡大に合わせたサービス内容充実を支える運営体制の構築に努めていきたい。</p> <p>・住民に対してサービス継続のためにはコミュニティバスの利用促進を図ることが求められることについて、一層の理解をすすめることが重要であると思われる。</p> <p>・NPOの自立的運営モデルについては、持続可能性に若干の無理があるように思われる。</p> <p>・評価指標(1)の人口減少を交通サービスの充実で測定することの難しさを改めて感じる。地域による人口変動の要因の違いについて検討が必要。</p>